

蛾の幼蟲、蛹、成蟲等の寫眞(12)

河 田 黨

(12) イ ラ ガ

Cnidocampa flavescens WALKER

幼蟲は楕圓形で、兩端少しく膨らみ、腹面扁平。腹脚無し。頭部は前胸の内部に隠される。各環節には2對づつの肉角があつて、中でも第1及び第9腹環節にあるものは特に大きい。之等の肉角からは澤山の刺が生じ、その刺は有毒で、人間が之に觸れると著しい痛みを感じる。色は黄綠色。背面に褐色の大紋あり、その左右に青色の2線がある。

・蛹は太く短く、脚や翅や環節は互に固着してゐない。初めは淡黄色、後に褐色となる。

繭は楕圓形で、堅く、色は灰白色で、暗褐色の曲條を有する。樹木の枝に附着してゐる。

卵は扁平。

年1回の發生、時に2回のものもある由。發生甚しく長期間に亘り、蛾は5月頃から10月まで、幼蟲は6月頃から11月頃まで見られる。繭中に前蛹の状態で越冬、翌春に至つて蛹化し、次いで羽化する。羽化に際しては繭の上端が蓋のやうに開く。

繭は俗にスズメノショウペンタゴと呼ばれ、前蛹は魚釣の餌として用ゐられ、タマムシと稱される。

寫 眞 説 明

上	成 蟲	×1.5	1934年6月撮影
左下	繭	×1.5	1935年5月撮影
右下	幼 蟲	×1.0	1931年9月撮影

KONTYŪ, VOL. IX, No. 5.

PLATE II.



イ ラ ガ

Cnidocampa flavescens WALKER